

標準属性・様式に関する標準規格の発行について

2025-09-29

Editor

佐藤周行 (NII)

鈴木彦文 (NII)

1. はじめに

今夏にパブリックコメントを募集していた「学術機関の発行する証明書のための標準属性とその利用シナリオ」「デジタル学生証の標準様式と発行シナリオ」について、リリースすることにした。

2. 対象とする読者

対象とする読者は、デジタル学生証に限定せず、大学で発行する各種証明書をデジタルの形式で発行する「日本の」大学等高等教育機関、「日本で」「デジタル学生証」を mdoc 形式で発行する大学及び業務委託を予定している企業、そのデジタル学生証から属性を受け取ってサービスを提供することを予定している企業である。

3. 残る問題点とその解決

今回リリースはするものの、パブリックコメントを通じて様々な問題点が指摘された。いくつかは反映することができたが、いくつかは将来の問題として先送りせざるを得なかった。本文書内でいくつかの重要な点を挙げ、将来の解決を目指すことにしたい

A. 顔写真のデータ形式

顔写真についてはJPEGを想定し、通常のカメラで撮影したものを想定している。しかし、最近の顔認証技術の発達により、認証についてより精密な判断ができる形式を検討すべきだという意見もあった。また、データ転送速度上の制限により、あまりにも大容量の写真データは禁止的であるという意見もあった。

実際、現在主流となっていて、大学の学務データに格納されている写真の形式が、通常のカメラで撮影した形式のものであること（特に、最初の学生証発行の時は、視認可能な精度の本人提出の顔写真（つまり入学試験の特に使う写真）をそのまま転用する大学が多くある）、顔認証のためのデータの取得には、撮影時に何らかのアクションが必要になること、そもそも大学の学務データとしてそのような機微情報を格納することは運用上の負担になることを考えれば現時点では妥当だと考える。

顔写真の精度については、大学ごと、または大学と委託業者の間で一度議論をした上で決定することを想定する。

B. 大学ロゴの扱い

大学ロゴについては多くを定められなかった。学生証の中に格納することで、視認時に真正性確認の精度が上がるが、利用時に大容量のロゴをいちいち送ることで学生証の認証トークンとしての性能が低下する。ロゴを省略することを含め、現場の裁量にまかせるような書き方になった。

C. その他属性の扱いについて

性別 (sex/gender) を入れることで、例えば性別が本質的に効いてくる更衣室やトイレの入室制御に使えるというアイデアがあった。このことで利便性は上がるが、inetOrgPerson にも定義がなく、そもそも微妙な情報であることから、今回は採用を見送らざるを得なかった。

D. 名前空間の定義

Mdoc 学生証の規定の際に使用した名前空間 `org.iso.23220.1.jp.gakunin.1.id` は、関係する団体への届け出と承認がまだなされていない。NII として手続きは今後進めるという理解のもので使用されたい。

名前空間については、JP や GAKUNIN で限定したが、限定する以前の `org;iso.23220.1` での規定前に提案するのは乱暴であるという意見もあった。国際的な動向に気を配りつつ、今後行動していきたい。

4. 標準規格の保守について

今回、NII は独自規格が乱立（すでに「大学アプリ」についてはそのような状況になっている）するのは好ましくないと考え、標準規格を定めた。今後同様の事態が学生証の他にも現れると想像している。それらを踏まえて、関連する規格（日本の大学でのメンバーについての標準属性セット、在学証明等各種証明書の形式等）を含め、日本の中で、透明性をもった形でどう制定・保守していくかの議論が必要であることを意識している。NII が責任をもってホストすることを前提に、関係各所との調整を急ぎたい。

以上